

## 第1回広聴事業「日本語指導について」（学校訪問及び教職員との意見交換）

## ○概要

広聴事業は、教育長と教育委員が、児童生徒・保護者及び教職員などの皆様と直接対話による意見交換を行うことで、より実情に沿った政策立案をしていくために実施している。

5月19日（木）に開催した第1回目は、「日本語指導」をテーマに「日本語指導センター校」である黒髪小学校の授業視察及び施設見学を実施すると共に、黒髪小学校・桜山中学校両校の校長、日本語指導教員、日本語指導協力員及び日本語指導対象児童の学級担任（計9名）と、教育長・教育委員（計4名）で意見交換を実施した。



## ○意見交換の内容

1. 日本語指導の方法について		
委員	質問・意見	回答
西山委員	<p><u>個別指導とグループ指導</u>            全て個別指導であるか。            グループ指導の場合、その難しさは何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導が基本である。グループ指導に挑戦したことがあるが、1人の担当で2～3人は難しく、2人の担当で3～4人という工夫をしたこともあるが、学年、学習内容及び日本語レベルの違いにより難しい。（教員）</li> <li>・児童生徒の母語や日本語レベル、経験やニーズが同程度であれば、グループ指導も可能であると考えている。会話は子どもたち同士の方が学びになる。（教員）</li> <li>・日本語レベルが同じ子どもたちを集めて指導した経験がある。小学校低学年が大勢集まると、指導に入る前のコントロールが難しくなると感じる。（協力員）</li> <li>・1人で3人の中学生を教えることは可能であった。多いときは指導者1人で8～9人の生徒を教えていたこともあるが、小学生では、その人数の指導は難しい。（協力員）</li> <li>・初期指導は日本語教師で、その後は教員が指導するという体制の自治体もある。（教員）</li> </ul>
澤委員	<p><u>指導時の言語</u>            子どもの指導は、どの言語で行っているか（それぞれの言語に翻訳したテキストが準備されているのか）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生には、市販のテキスト（十数か国語に対応）を購入してもらう。</li> <li>・タブレットを使用し、母語を活かしながら、自分で翻訳して調べるスキルを上げている。（教員）</li> </ul>
澤委員	<p><u>教材の活用</u>            教育センターでデジタル教材をアップしているため、その活用も検討できるのではないか。</p>	※提案のみ

2. 日本語指導の体制について		
委員	質問・意見	回答
西山委員	<u>ウクライナからの入学希望があった場合の指導体制</u> ウクライナ人が入学した場合、対応は可能と考えるか。	既に対応実績あり。(教員)
西山委員	<u>中国語を母語とする子どもが増加した場合の対応</u> 今後、中国語を母語とする子どもが多く入学した場合、対応は可能であるか。中国語を理解する教員の確保は可能と考えるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全く日本語が分からない子どもに対しても、カード等を利用して母語でなく日本語で対応する。英語圏の子どもは英語を使いたがることがあるが、基本的に日本語で指導する。(教員)</li> <li>・ 中国語を母語とする協力員がおり、教育相談、保護者への文書の確認等を依頼しているため、引き続き行う。(協力員)</li> </ul>
遠藤 教育長	<u>センター校の位置</u> 例えば北の方に1校、南の方に1校とした方が、移動がしやすくなるのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センター校が小中1校ずつで近隣であるため、他校への<u>移動が広範囲となり、移動に時間を要している</u>。(教員)</li> <li>・ 現在のセンター校の位置は、熊本大学に近くニーズが高かったからである。(指導課)</li> <li>・ H24に桜山中学校にセンター校ができたときは、小中のニーズの違いがあるとの説明だったが、場所が分散していた方が良い。(教員)</li> </ul>
遠藤 教育長	<u>教員の移動時間</u> 指導教員の負担軽減のため、移動する日としない日を設定するのはどうか。	日課表の組立が難しい。学校により日課表が随分違う。実技系の授業は出てもらいたいので、その時間に日本語指導を入れられなかったり、低学年は午後の授業は入れられなかったりと、調整に苦慮している。(教員)
西山委員	<u>大学との協力体制</u> 立命館アジア太平洋大学 (APU) では、留学生が通訳を買って出て支援をしているとの話を聞いた。熊本大学にも様々な国の留学生がいるため、協力を仰ぐといいかもしれない。留学生が日本語を話せない場合は英語で二重通訳にはなるがだいぶ違うと思う。	以前は留学生に学生のチューター(世話役)が付いて、編入時の面談に付き添ってもらい、チューターの連絡先も知っていたが、ある時期からそれがなくなった。(教員)
黒髪小 柴田校長	<u>日本語指導以外の時間の支援体制</u> 小学校週24時間・中学校週29時間のうち4時間が日本語指導であるが、 <u>残りの時間は日本語があまり理解できていない状態で通常授業を受けているため、特別な支援が必要</u> である。	※提案のみ、意見交換の場での回答なし。

3. 日本語指導の人員・人材について		
委員	質問・意見	回答
西山委員	<u>日本語指導教員の増員</u> 課題として指導者の増員の必要性が挙げられているが、何人の増員が必要か。	ニーズに応える指導をするには、 <u>小学生40人に対し教員7人(増員3人)、中学生30人に対し教員4人(増員2名)が必要</u> である。指導者1人当たりの児童生徒数がこれ以上増えると、指導が4時間必要な場合に2時間となる等の状況が生じる(教員)。
遠藤教育長	<u>日本語の十分な習得に必要な指導人員数</u> 早めに修了せず必要があるところまで指導を受ける場合、何割程度の増員が必要か。	<u>指導者1人が指導可能な児童生徒数は6人</u> である。現在、小学校は31人の児童がいるため、必要な教師数は、 $31 \div 6 = 5.17$ 人。今後、指導の必要な児童数増加も予想される。小学校は教員4人で対応しているため十分な指導のためには少なくとも教員1人、指導協力員1人の増員が必要である。(教員)
遠藤教育長	<u>日本語指導協力員の予算確保</u> 毎年、指導課では増員の予算要求をしているのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力員のみに限らず、教員の増員も視野に入れた日本語指導全体としての検討を行ってきたことと共に、ここ数年においては対象者数が横ばいの傾向であったことから、現状維持の予算要求をしていた。(指導課)</li> <li>・協力員としての勤務だけでは生計を立てられないので、他に仕事を持っていることが多い。(教員)</li> </ul>
澤委員	<u>日本語指導のスキル</u> 日本語指導にはどのような指導スキルが必要か(資格、研修等)。	日本語教師の民間資格はあるが、日本語指導の資格は必須のものではない。教員として教科を教えたり、人間関係をつくったりするスキルが必要である。(教員)
澤委員	<u>日本語指導協力員の選考</u> 日本語指導協力員の選考方法は。	公募し、指導課で面接して選考する。語学が堪能であったり経験豊富であったりする方が多い。協力員のうち1人は、中国から来られた先生である。(指導課)
小屋松委員 (事前質問)	<u>通訳</u> 日本語指導するには、子どもたちの母国語に精通している人材(通訳)が必要かと思うが、現状足りているのか。また、どのようなルートで通訳の人材を集めているのか。今後の見通しはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのコミュニケーションを取りたいときには、日本語指導教員に通訳してもらうこともある。翻訳アプリも使用しているが、言語により切り替えする必要があり、難しさがある。(担任)</li> <li>・ZOOMを活用して通訳してもらうこともできると思うので、人材バンクのようなものがあれば助かる。(教員)</li> </ul>
桜山中田口校長	<u>日本語指導協力員の志望者数</u> 協力員の志望者は多いのか。	令和4年3月にも公募したが、かなりの人数の応募がある。日本語指導に興味があり、資格を取られた方もいらっしゃった。面接で丁寧にお話を聞いて、学校の中で子どもたちと一緒にうまくやっただらうなという方を選んでいる。日本語指導の経験がなくても、教科を教える力が大事である。(指導課)

3. 日本語指導の人員・人材について (つづき)		
委員	質問・意見	回答
遠藤 教育長	<u>日本語指導教員の選出</u> どのようにして日本語指導教員になるのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある日突然選ばれる。(校長) ※通常の人事異動と同様</li> <li>・今年度から日本語指導教員となったが、学びながらやっている。特別なスキルが必要だというわけではなく、特別支援学級の考え方、通常学級の指導の仕方、他の先生方の指導方法など、いろいろなことが活かしている。(教員)</li> </ul>
遠藤 教育長	<u>資格保有者の情報共有</u> 日本語指導の資格を持っている教員の情報は、教育委員会事務局で把握しているのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で専攻した人もいと予想され、資格保有者は0ではないが、日本語指導を希望する教員はあまりいない。(教員)</li> <li>・英語のスキルは役立つ。(教員)</li> <li>・希望する教員が少なく、小学校と中学校の異校種間での異動も難しい。(指導課)</li> </ul>
遠藤 教育長	<u>人材の確保</u> 新たに人員を募集する場合、どういう条件がいいと考えるか。	資格を持つ人はたくさんいるが、子どもの相手をしたことがないという人も含まれており、要件設定が難しい。(協力員)
4. 日本語指導の対象児童生徒について		
委員	質問・意見	回答
遠藤 教育長	<u>対象児童生徒の増減理由</u> 対象の児童生徒数が年度によって大幅に増減する理由は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で来日予定だった人が来られなくなったり、一時帰国したが再来日できなかつたりという状況がある。(教員)</li> <li>・H29は地震の影響、ここ2～3年はコロナの影響で国外へ出られないことが一因と考える。社会的状況の影響を受ける。コロナの影響がなければ増えていく状況ではある。(教員)</li> </ul>
出川委員	<u>永住・定住希望者の増加理由</u> <u>卒業後の進路</u> 永住・定住希望が増加している理由は。また、卒業後の進路はどのようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は、親の結婚や仕事の関係で来ているため、ほとんどが定住希望である。高校進学を希望し、日本での就職や大学進学を希望されることが多い。公立高校に入る生徒もいる。今年度から高校での日本語指導が始まるという情報もあり、更なるフォローができると考えている。(教員)</li> <li>・永住か非永住かは、指導内容や時間のかけ方、修了決定の大事な視点になる。永住・定住希望であれば、しっかりした日本語を身に付けるように指導する。(教員)</li> <li>・小学校低学年で日常生活に問題なくて修了した場合に、追跡調査するのは難しく、その後の状況(高校入学、卒業の状況)は不明である。(教員)</li> </ul>
出川委員	<u>十分とは言えない状況で指導修了している児童生徒数</u> 途中で修了していると考えられる子どもは、年に何人いるか。	小学校は、平均すると5人を下回ることはない。常時5～6人はいる。(教員)

4. 日本語指導の対象児童生徒について(つづき)		
委員	質問・意見	回答
出川委員	<p><u>対象児童生徒の指導修了の目安</u></p> <p>日本語指導のゴール設定はあるのか。具体的なゴールがない場合、対象者の増加により、例えば3分の2しか終わっていないという状態での修了が発生するのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や保護者と相談して修了するが、修了した後も様子を見ることもある。(教員)</li> <li>・どれくらい日本語の力が付いているかの基準はあるが、その基準に基づき運用できるほど潤沢な教員や時間がない。特に小学校でそのような状況である。今は、中学生はある程度時間の調整をしている。(教員)</li> <li>・基準設定が難しい。(教員)</li> <li>・日常言語は1年程度で習得できるが学習言語は5～6年以上かかるといわれる。低学年で入った子どもは日常生活ではテキストを追い越すことはある。教科の支援はきりがなく相当時間がかかる。在籍学校の支援に頼らざるを得ないのが実情である。(教員)</li> <li>・教員の人数が決まっているため、新しい子どもが入ってきたときに、既に指導を受けている子どもの方の優先順位が低くなれば、早めに修了となる場合がある。(校長)</li> <li>・ニーズが高い子ども(来日したばかりなど)が優先になるため、やむを得ず早めに修了させることもある。小学生のうちに時間をかけて指導ができたならよかったと感じる事案もあった。(教員)</li> <li>・小学校で日本語指導を受けたが、中学校で授業についていけなくなった場合に、その理由が学力でなく日本語の問題というケースがあるため、修了後にサポートすることもある。これは、通常指導の+αとなる。(校長)</li> </ul>
5. 日本語指導の対象児童生徒の保護者について		
委員	質問・意見	回答
澤委員	<p><u>保護者との相談の頻度</u></p> <p>保護者のサポートも必要である。教育相談や三者面談等、保護者との相談の頻度は。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の場合、進路相談は子どもの将来に関わるため、保護者に来ていただくこともある。(教員)</li> <li>・学校から国際交流会館へ通訳の派遣を依頼し保護者も交えて実施することもあるが対応が難しい言語がある。(教員)</li> <li>・現在、英語が堪能なスクールカウンセラーがおり、児童に寄り添った相談対応ができるようになったため、今後も英語の堪能なカウンセラーの配置があるとありがたい。(校長)</li> </ul>
出川委員	<p><u>保護者の学ぶ機会</u></p> <p>児童生徒が指導を受けるときに保護者にも参加してもらい、関心をもってもらえるのはどうか。保護者の学ぶ機会がないという状況が少し減るのではないか。学校の文化に触れて人と出会うのも、日本を知ることにつながる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたい保護者は、国際交流会館のボランティア指導を受けることが可能である。(教員)</li> <li>・オンライン指導で保護者とも繋がることもあり、英語と簡単な日本語で対応するというをしている。(教員)</li> </ul>

6. その他		
委員	質問・意見	回答
黒髪小 柴田校長	<u>トイレの洋式化</u> 外国人児童の対応を行いやすくするため、早めに洋式化したい。	・時期を早めたいのであれば、夏休み以外の期間での工事を検討のうえ、担当課に相談を。(教育長)

## ○特色のある点

ポイント
(宗教上の理由で) 給食を食べられない場合は、お弁当を持参する。校長室の冷蔵庫で保管する。
給食でも、外国の児童に対応している。
肌が見せられない児童の着替えのため、空き教室を利用している。
テキスト代、通ってくる場合のバス代等、保護者の経済的負担が生じる。他県ではテキストを一冊寄付するプロジェクトがある。

入口の表記も工夫されている



特徴的な掲示物



日本語教室に保管してある  
貸出用のランドセルや鍵盤ハーモニカ



パイプ(ホース)は各自で準備します

この日は1部屋を区切って指導



## ○広聴事業での意見交換を受けて整理した課題

- ・ センター校の追加を含めた設置校の見直しの必要性
- ・ 日本語指導教員の増員の必要性
- ・ 日本語指導の対象児童生徒が通常授業に参加する場合の支援の必要性

## ○今後の検討事項及び対応の方向性

検討事項	対応の方向性
1. <u>センター校の設置</u> 別地域へのセンター校設置が希望されている。	まずは小学校のセンター校について、中央区とは別の区への設置に向けて取り組んでいく。
2. <u>日本語指導教員及び日本語指導協力員の増員</u>  手厚い指導を可能とするには、児童生徒6人に対し1人の指導者を希望されている。  ※R4.5.10現在、小学校の指導教員4人・児童27人、中学校の指導教員2人・生徒15人	日本語指導教員の増員を検討していく。 日本語指導協力員については、今後の日本語指導教員の配置状況等を勘案しながら、見直しの必要性を検討していく。  〔参考〕 法で定める日本語指導教員の定数は、当該指導を要する児童生徒18人に対して1人の教員が定数措置されるもの。 (義務標準法第7条第1項第6号)
3. <u>日本語指導サポーターの増員</u> 対象児童が通常授業に参加する場合の対応として、サポーターの増員を希望されている。	小中学校に、再任用職員を活用した日本語指導サポーターの配置を行う。 ※今年度は高校に1名、このサポーターを配置。